

# 潮音寺だより

第 270 号  
平成 18 年 4 月  
電話 052-671-4831  
ファックス 052-671-4856  
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11

もし人、善根を植えんも、疑う  
ものば、すなわち華開かず。  
信心清浄なるものは華開いて、  
すなわち仏を見たてまつる。

出典『十住毘婆沙論』

神も

仏もないと

お嘆きの御仁

先ずは

自身の

心の土壌どじょうに

仏の種を蒔まき

花を咲かせましょう

『相生山の桜』 提供：正田勝彦氏

## 最期の一日 (外国編)

◆アダム・スミンス (1723～1790)

イギリスの経済学者。『国富論』の著者。61歳のときに母をなぐした彼は、それ以来健康が衰えた。晩年の1790年7月中旬、見舞いに来た友人に、自分のノート16冊を焼くつもりで、安心したよつじになった。そして私は感念と一緒にいたいのですが、お別れしてあの世に行かなければならぬと、よつじで寢室に去り、17日に死んだ。67歳。

◆J・フントン (1732～1799)

アメリカの初代大統領。晩年の12月12日、習慣にこつていた乗馬の散歩中、みぞれにあり、風邪をひいた。14日午後10時頃秘書に「葬式はついでに頼む。しかし私が死んでも、3日間は墓に入れないでね。ついでに、」と残し、静かに絶命した。67歳。

◆カント (1724～1804)

ドイツの哲学者。カントは一生独身を過し、毎口同じ町の同じ場所を同

時刻に散歩するといつ生活を続けた。1803年12月、彼は自分の名前も書けな

いほおぼけてきていた。翌年2月11日の夜、彼は友人からスプーンで、葡萄酒と水を甘く割った飲み物を差し出され、かろつじて飲むことができた。このとき「よつじ」といひ、これが最期の言葉となった。翌朝彼は息を引き取った。88歳。

◆ゲーテ (1749～1832)

ドイツの小説家、劇作家。1832年3月16日、ゲーテは風邪をひき、床に就いた。22日午後11時30分、椅子の隅に身を寄せかけたままで亡くなった。「怒を開けつね、明りがもつて入るやうに」と言ったのが最後の言葉である。「もつと明りを」といつ印象的な言葉はこれに基いていゝる。88歳。

◆ゴストエフスキー (1821～1881)

ロシアの小説家。『罪と罰』で有名。1881年1月25日夜、執筆中にペンを落として、それを拾つたために本棚を動かし

たとたん咯血した。2月6日朝、彼は妻に言った。「アーニア、僕はもつ3時間もずつと暮らしていたのだが、今日僕は死ぬよ、11時頃目覚め彼は言った。「君を残していくのがとても心配だ。これから生きていくのが、どんなに苦しいか。夜8時30分、死す。葬儀には約3万の人々が、修道院の教会堂まで棺のあとに付き従つたといひ。88歳。

◆トルー (1802～1865)

フランスの小説家。『ミゼラブル』が有名。晩年の5月18日、彼は倒れ、ベッドの中で言った。「君、死ぬのはつらいね」「死んだりなやめるものどすか」「じゃ死ぬね」しばひつて「じい」夜と昼が戦つてゐる」といふやうだ。22日の朝から臨終の苦しみが始まり、午後1時37分に息を引きとつた。最後の言葉は「黒い光が見えた」だった。このときからまじつ風がハリを襲い、雷が鳴った。83歳。

◆トッホ (1853～1890)

オランダ人の画家。1888年5月、パリ北方の小さな町オーヴェルに行き、絵を描き始めた。7月27日の夕刻、麦畑のなかで自分の胸を「ストル」で撃った。弾は心臓を外れたが、彼は重症のまま歩いて宿屋に帰った。明くる日、急報を受けて駆けつけた弟のテオに、ゴッホは泣かないでくれ、僕はみんなが幸せになるように思っていて、こんなことをしたんだと言った。28日の夜「僕はこんなふうに死んでしまいたいと思ってたんだ」といった。28日午前1時半、息を引き取った。生前に「売れた絵は、1枚だけであった。37歳。

◆イプセン (1828～1906)

ノルウェーの戯曲家。「人形の家」で有名。1900年72歳のとき卒中に襲われ右半身が不随となった。1906年5月頃から衰弱が激しくなり、月半ばかりの睡眠状態が続くようになった。22日の昼頃、看護婦が家人に少し良くなりねえ、と申しました。彼は「とてせせせせな」と

と言った。翌日の午前2時半死」。78歳。

◆マーク・トウェーン (1835～1910)

アメリカの小説家。「トム・ソーヤの冒険」で有名。死ぬ1年前に彼は「私は1889年ハレー彗星が通過するこの夜に生れた。来年はまた彗星が近づくと。私は彗星とともに、この世を去りたいと言った。翌年、ハレー彗星が現われた翌日の4月21日、彼は突如狭心症の発作を起こし、絶命した。最後の言葉は「じゃあまた、いずれあの世で会えるんだから」と言った。76歳。

◆ルノワール (1841～1919)

フランスの印象派の画家。ルノワールは後半生リニューマチに苦しみて、最後の20年は手に鉛筆を握りつけないでして、描き続けた。1919年12月2日、普段と同じように静物画を描き終え、午後7時頃眠りにおちた。8時頃、いきなり彼は「バシッ」と叫びた。この2羽の山じね」といった。彼は幻の

鳥を見ているのである。「山じねの位置を変えてくれ。早く、絵具を、パレットをよこしてくれ」。彼は、午前2時静かに息を引き取った。78歳。

◆「ナン・ドイル (1859～1920)

名探偵「シャーロック・ホームズ」の作者。彼は第一次大戦に出征した息子を失ったこともあって、晩年神霊学に凝り始めた。1929年秋、彼は倒れ、療養の結果、翌年春に一時回復したが、夏から再び悪化した。30年7月7日朝7時半、妻に「この地上で最も優秀な看護婦へ、と刻んだ勳章をお前のために作るべきだ」と思つたと言った。8時半、死後世界を信じていた彼は安らかに死んでいった。71歳。

◆チャーチル (1874～1965)

イギリスの政治家。最後の日に近い誕生日に「私は随分沢山のことをやって来たが、結局何も達成できなかった」と娘に語った。最後の言葉は「何もかもワンザリしちゃったよ」といふ。91歳。

## ◎工事状況報告

一月二十八日から本堂屋根の鉄骨の組立、三月十八日より本堂部分の足場の組立、まもなくステンレスで屋根葺きが始まります。また、同じ十六日には位牌堂の外壁パネルの設置が一応終わり、こちらもまもなく最上階のドーム部にステンレスの屋根が葺かれる予定です。

ただ、夜中に溶接に使う発電機が、盗難にあってしまいました。なんでも、工事現場から盗んできては、外国に売りさばっている、悪い窃盗団がいるのだそうです。困ったものです。



## 雑記

## ▼相生山緑地

名古屋市ホームページの観光



情報から……

野並、相生、山根の三学区にまたがり、二二三haという市内有数の広大な面積をもち、良好な自然を残している。緑地内に東西三〇〇、四〇〇mにわたって桜並木があることは、あまり知られていない。野つじが咲き、野うさぎの姿を見かけることがある。昆虫も多いが、特に鳥類は、七〇余種が観察され、秋になると市内では珍しいコノハズク、ヤマシギの鳥に出くわすことがある。ひときわ喧嘩から離れ、野鳥の声を聞きながらの散歩はいかが。平成十年四月にはオアシスの森が整備された。

なお、(一)には記載されていますが、五月末から八月初旬頃に、ヒメボタルの見事な舞いが見られるとか。表紙の桜並木の写真は、足田勝彦様より提供頂きました。

## ▼菓子折の中花ざかり

桜餅 沐魚